

## 2. 大学立地を想定した場合の大阪城東部地区のまちづくりコンセプト及び戦略

### (仮称)大学とともに成長するイノベーション・フィールド・シティ

- ・新大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまち



### 1. まちにひらかれ、まちとともに成長する「次世代型キャンパスシティ」

- ① **まちにひらかれたキャンパスシティ** (keyword: 市民開放・産学官民連携・国際交流)
  - ・都心立地を活かし、市民開放・産学官民連携・国際交流などの機能を有する新大学を核としたまち (⇒例. 大阪工業大学梅田キャンパス、横浜教育文化センター跡地、中野四季の都市、NYコーネルテック等)
- ② **まちとともに成長するキャンパスシティ** (keyword: 街の成長牽引・リビングラボ)
  - ・新大学が先導役となり、まちの成長を牽引し、随時、まちの課題を解決し発展するまち (⇒例. 柏の葉アーバンデザインセンター、ナレッジキャピタル、WSE Living Lab (たまプラザ 駅北側地区) 等)

### 2. 健康医療・環境等の既存資源を活かした「スマートシティの実証・実装フィールド」

- ① **スマートエネルギー、スマートモビリティ等の実証・実装フィールド** (keyword: スマートエネルギー・スマートモビリティ)
  - ・豊富な水・緑、供給処理施設を活かしたスマートビル等の実証・実装や、基盤整備を伴う大規模なまちづくりを活かしたスマートシティの実証・実装フィールド (⇒例. 柏の葉スマートシティ、NYハドソンヤード開発、品川シーズンテラス 等)
- ② **スマートエイジングシティの実証・実装フィールド** (keyword: スマートエイジング)
  - ・大学と、健康医療機関、UR、企業等が連携し「健康寿命の延伸」「QOLの向上」「住み続けられる住環境の形成」に先導的に取り組むまち (⇒例. 柏の葉スマートシティ、UR大規模団地をフィールドとした取り組み (河内長野市南花台団地、高蔵寺NTなど) 等)

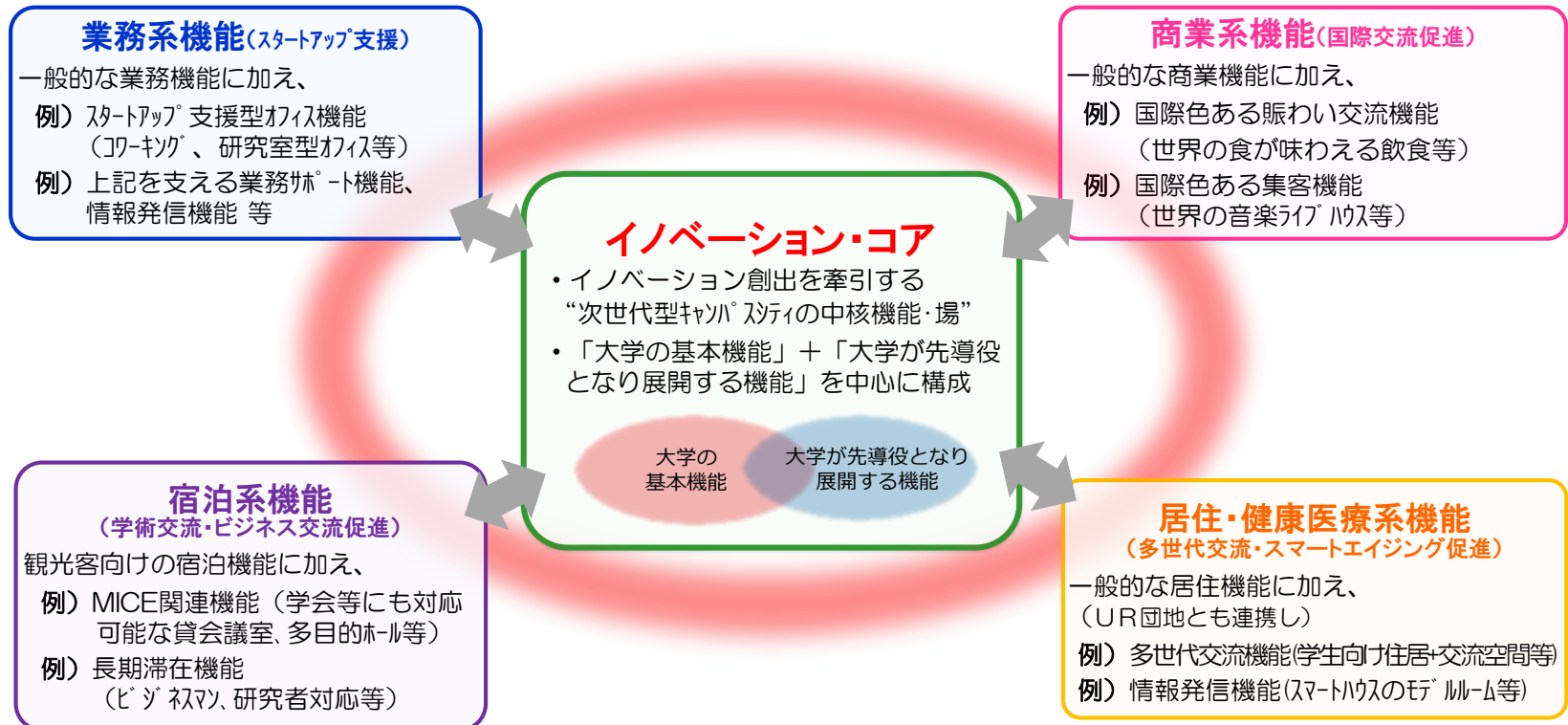
### 3. 多様なひと、機能、空間、主体が交流する「クロスオーバーシティ」

- ① **多様なひと** : 多様な世代、国籍、目的の人々 (学生、住民、就業者、観光客) が集い交流するまち (keyword: 学生+住民+就業者+観光客)  
(⇒例. 中野四季の都市、柏の葉スマートシティ等)
- ② **多様な機能** : 職住遊学などの多様な機能が重層的に集積し、互いに相乗効果をもたらすまち (keyword: 職住遊学×重層空間)  
(⇒例. NYハドソンヤード開発(操車場上部利用)、品川シーズンテラス(芝浦水再生センター上部利用) 等)
- ③ **多様な空間** : 大阪城公園の緑や水辺空間と一体的に、公共的空間と民間空間が調和した、デザイン性のあるまち (keyword: 空間デザイン)  
(⇒例. デザイン性に優れた、デッキ空間 (ハイライン等)、親水空間 (日本橋川沿計画)、公民連携空間 (丸の内仲通り) 等)
- ④ **多様な主体** : 産学官民の多様な主体が連携し、エリアマネジメントを展開するまち (keyword: エリアマネジメント)  
(⇒例. 柏の葉アーバンデザインセンター 等)

### 3. コンセプト及び戦略を受けての展開イメージ

#### (1) 『次世代型キャンパスシティ』の展開イメージ

- ◆ 次世代型キャンパスシティの中核機能・場を「**イノベーション・コア**」と位置付ける。
- ◆ 「イノベーション・コア」は、「大学の基本機能」＋「大学が先導役となり展開する機能」を中心に構成する。
  - ・「大学が先導役となり展開する機能」としては、「スマートシティ推進機能」「都市ソクソク機能」「技術イノベーション機能」「文化・芸術、国際交流機能」「大学、研究所のサテライト等機能」などの導入を図る。
  - ・また、大学が先導役となり、住民や学生、ユーザーなども巻き込みながら、産学官民連携のもと地域課題を解決するような、幅広いオープンイノベーションの展開を図る。
- ◆ 次世代型キャンパスシティでは、下図のように「イノベーション・コア」を中心に、新たなイノベーションが誘発されるよう多様な機能の集積・連携を図る。



# イノベーション・コア

## 大学の基本機能

### ◆ 都心キャンパス機能

- ⇒大阪の発展を牽引する「知の拠点」である新大学の存在を存分に活かした新たなコミュニティの形成
- ⇒大学のフロントラインとして、杉本キャンパスや中百舌鳥キャンパスなどと連携したイノベーションの誘発

## 大学が先導役となり展開する機能

～時代の先を切り開くアカデミアの新たな科学・技術とアート・デザインの融合（STAD※）～

### ◆ スマートシティ推進機能

#### ⇒データ連携プラットフォーム

- ・府民・市民、行政、大学、民間が共創（活動）できるフィールドの実現
- ・アプリの横展開および統合型アプリ開発支援など

#### ⇒データマネジメントセンター

- ・行政などの各種ビッグデータの管理、分析、活用
- ・阿倍野キャンパス（医学）、中百舌鳥キャンパス（工学、情報学他）と連携したデータ利活用のマッチング、コーディネート機能
- ・地区内や周辺の各種データの収集・分析・活用による課題解決やまちづくりの推進/リビングラボの拠点施設

#### ⇒スマートユニバーシティ

- ・セキュア（安全）な状態で学内のデータを収集・分析し、教育支援、大学生生活の質を向上
- ・最新の研究開発技術等の実証支援

### ◆ 都市シンクタンク機能

（研究・共創を支援するコミュニティの形成）

#### ⇒大阪府・市・大学法人合同プラットフォーム

- ・強力なタッグのもと、府市の喫緊の都市問題に対応
- ・府市や公的研究機関、民間からの外部人材も入れる知の交流、人事交流

#### ⇒(仮称)大阪森之宮リビングラボ：ワークスペース、カンファレンス・スタジオ等

- ・住民等のエンドユーザーも参画した産学官民によるオープンイノベーション
- ・アカデミア×イノベータのコラボレーション

### ◆ 技術インキュベーション機能（バイオエンジニアリング、医工連携等）

#### ⇒産学共同ラボ+交流センター

- ・理工系のサテライト機能
- ・大学の先端的研究をアピールし共創を誘発
- ・大学（医学、生活科学、リハビリ学、工学他）と企業・ものづくり産業等との共同研究やマッチング機能等

#### ⇒万博後のコンテンツ等の継承発展に資する機能

- ・地球に優しい持続可能な未来型住環境のモデルハウス化
- ・「スマートリハビリテーション研究センター」によるスマートエイジング・シティの推進など

#### ⇒スタートアップ支援機能

- ・先端ヘルスケアなどの未来シーズ探索、学生の社会実学学習
- ・大学発ベンチャー促進

### ◆ 人材育成機能

#### ⇒リカレント教育の場

- ・大阪の発展に貢献する専門職業人、専門的な知識・技能等を有する企業経営者等の養成

### ◆ 文化・芸術、国際交流機能

#### ⇒アート、リベラルアーツの多目的スペース

- ・文化・芸術、人文科学の知の創出と発信

#### ⇒新しい形のライブラリー

- ・デジタルコンテンツの充実、メーカースペースなど
- ・学生に加え、府民・市民、企業にも開放/リビングラボの拠点施設

#### ⇒大学コンソーシアム機能等

- ・研究・共創を支援するコミュニティの形成

### ◆ 大学、研究所のサテライト等機能

## (2) 『スマートシティ』の展開イメージ

## ◆ 現状を踏まえて ～将来的な取組みテーマ(例)～

当該地区の立地や特徴的な既存施設などを踏まえ、以下のとおり将来的な取組みテーマ(例)を想定。

- ・ 鉄道車庫施設等の存在 ⇒ 『モビリティ』
- ・ 下水処理施設等の存在 ⇒ 『環境・エネルギー』
- ・ 大規模団地+病院立地 ⇒ 『ヘルスケア』
- ・ 大阪城公園等と隣接 ⇒ 『観光集客』
- ・ 密集住宅市街地と隣接 ⇒ 『防災・防犯』
- ・ . . . など

## ◆ 展開イメージ ～極力早期に取組みたいテーマ(例)～

極力早期に取組みを検討したいテーマ例は以下のとおり。

## ① 「モビリティ」

- ・ スマートモビリティを活用した主要ターミナル等からの区内アクセス確保について検討

## ② 「ヘルスケア」

- ・ 森之宮地区において進められている「スマートエイジング・シティ」の取組みについて、新大学の立地を契機に拡充を検討
- ・ 地域のコミュニティやスマートホスピタル（阿倍野キャンパス等）と連携するウエルネススマートシティを市民と共創（新たなリビングラボ機能）

※上記に関しては、イノベーション・コアにおいて大学が先導役となり展開するスマートシティ推進機能（データマネジメントセンター等）と連携し、データ収集・分析・活用しながら展開する。

## (3) 『クロスオーバーシティ』の展開イメージ

## ◆ 現状と課題 ～当該地区の「ひと」「機能」「空間」「主体」について～

**ひと**：国内外から多くの人々が訪れる大阪城公園に隣接しているが、区内は、集合住宅居住者や就業者が中心

**機能**：鉄道車庫や下水処理場等の施設が立地し、現状では高度利用が難しい大規模敷地が立地

**空間**：大阪城公園の緑や水辺空間との一体性に乏しい(周辺資源を活かせていない)魅力的な景観・空間の形成には、これらの調和が不可欠

**主体**：近隣には特徴的なエリアが存在しており、隣接するOBP等ではエリアマネジメント活動に積極的に取り組んでいる

## ◆ 展開イメージ ～多様なひと、機能、空間、主体のクロスオーバー促進～

## ① 住民・就業者+大学関係者・観光客等のクロスオーバー促進

⇒ 住民・就業者だけでなく、大学関係者や観光客など新たな“ひと”のクロスオーバーを促進

## ② 多機能化×重層化による機能面でのクロスオーバー促進

⇒ 「イノベーション・コア」を中心に、業務・商業・宿泊・居住などの多様な機能が交流・連携しイノベーションを誘発

⇒ 鉄道施設や下水処理場等の上部利用などにより、重層的な土地利用促進を検討

## ③ 大阪城公園の緑や水辺空間と一体的に、公共的空間と民間空間が調和した、デザイン性を重視

⇒ 大阪城公園の緑との連続性を意識した空間形成や、大阪城公園北側で整備が進む親水空間と一体的な水辺空間の形成検討

⇒ 区内の公共的空間と民間空間との調和とともに、民間施設そのもののデザイン性の確保を促すなど区内の調和のとれたデザインマネジメントの検討

## ④ 多様なプラットフォーム形成による主体間のクロスオーバー促進

⇒ 「イノベーション・コア」を有効に機能させるための、産学官民連携のプラットフォーム（≒都市の様々な機能【府・市・大学法人合同プラットフォーム、（仮称）大阪森之宮リビング・ラボ】）形成検討

⇒ 大阪城東部地区の価値向上のため、地権者を中心に、住民・就業者・学生等も参画するプラットフォーム（≒エリア組織）形成検討

⇒ 周辺地区（OBP・大阪城公園・京橋周辺等）のまちづくりと連携して活動するためのプラットフォーム（≒エリア連絡会）形成検討